

福祉教育サポーター

養成講座

小中学校での福祉教育のサポートを行うボランティアを養成する講座です。
特に車いす、視覚障がい者体験といった体験学習の講師役及びサポート役を募集しています。（全2回）

一緒に子どもたちへの福祉教育を担っていただけませんか？

1日目

導入・福祉教育とは

🍀 講演：福祉教育の意義について

🍀 講師：あったかウェルねっと 事務局長 須田 正子 氏

鶴ヶ島視覚障害者の会アイネット 長岡 保 氏（視覚障害）

9月4日（金） 14時～16時



2日目

福祉体験学習レクチャー



・車いす体験



・視覚障がい者体験



9月11日（金） 14時～16時



会場：両日とも狭山市社会福祉会館（狭山市入間川2-4-13）



「あったかウェルねっと」とは

「彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク」の愛称です。平成13年（2001年）に設立され、教師、社会福祉協議会職員、ボランティア、障がいを持った人など、様々な会員が職業・立場や地域を超え、“福祉の心”の育成のために埼玉県域で活動を重ねてきました。子どもへの福祉教育をはじめ、地域で福祉教育を教える教師・社会福祉協議会職員、ボランティアなどに対する研修の講師も務めるなど、幅広い活動をしています。

【お申込み・お問い合わせ先】

狭山市社会福祉協議会ボランティアセンター ☎04-2954-0294 締切：8月27日

狭山市の福祉教育の取り組み

■福祉教育とは

誰もが幸せに暮らしていける「共生社会」を築くために行う、福祉の出前授業です。一人一人が自分に何ができるか考え、障がいのある人もない人もお互いに支え合う力を育みます。

日本全国各市区町村で、様々な福祉教育の取り組みが行われています。

■狭山市社協のこれまでの取り組み

平成6年ごろから、様々な障がいの当事者や高齢者の話を聞く当事者講話、車いす体験、ガイドヘルプ体験、高齢者疑似体験、点字学習およびキッズあいサポートなどを依頼先の学校等と打ち合わせを行い実施してきました。これらの事業は、福祉教育サポーターと呼ばれる市民ボランティアと一体となり行っています。

■「体験学習」は「考える授業」へ

テーマは“気づく・見守る・声をかける・大人につなぐ”

コロナ禍のなかで接触をとまなうメニューの見直しを余儀なくされ、また、従来あった課題も見直し、小学生向けの新しいプログラムを開発しました。

従来は車いすの操作方法や視覚障がい者の方のガイドヘルプの方法を学ぶ内容が中心でした。しかし、限られた体験時間の中で、一番学んでほしいことは何かということを検討した結果、技術を学ぶよりも“自分で考え行動できる”ように場面設定をしたロールプレイを中心とした内容に変更しました。小学生のみなさんも積極的に考えて参加しています。

■ロールプレイの例

スーパーで「こんなときどうする？」

スーパーで車いすの人が困っている・・・
高いところの商品に手が届かないようです。



駅で「こんなときどうする？」

白杖をついている方が駅のホームから落ちそう・・・



■「あいサポートキッズ」を推進しています！

障がいのことを理解し、ちょっとした手助けや配慮を実践することで、誰もが暮らしやすい共生社会を作っていく「あいサポート運動」を子ども向けにわかりやすくしました。

講師(メッセンジャー)によってわかりやすく、丁寧に伝えていきます。時には障がいの当事者(ゲストスピーカー)も交えて、障がいについての授業をします。

